

挨拶  
全日本中学校長会会長 榎本智司

本日、第67回全日本中学校長会研究協議会宮城大会の開催に当たり、文部科学省大臣官房審議官 浅田和伸 様、宮城県教育委員会教育長 高橋 仁 様、仙台市長 奥山恵美子 様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、錦上に花を添えていただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また、これまで本大会の開催に当たり、準備をすすめてこられました、大会実行委員長の 星 豪 様をはじめ関係の皆様のご努力に対し、心から敬意を表する次第です。

そして、これまでご指導・ご鞭撻を賜りました文部科学省をはじめ、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会他、多くの関係の皆様方に深く感謝を申し上げます。

今大会は東日本大震災後、東北地区で初めて開催される大会となります。特に、多くの方々が被災された宮城県での開催となります。この間、幾多の困難を抱える中、生徒たちのために、教育活動の更なる充実、発展をめざし、その先頭に立って献身的にリーダーシップを発揮し学校経営に邁進されるとともに、震災間もない復旧・復興の時期から本大会の準備に精力的にご尽力いただいた全ての皆様方に深く敬意を表します。本当にありがとうございました。

はじめに、今年は、例年になくたくさんの台風が日本列島を通過しました。特に、8月末の台風10号は、東北・北海道地方に上陸し、多くの被害をもたらしました。

また、本年4月、熊本地震が発生しました。さらには、10日あまり前には阿蘇山が噴火しました。台風や地震、そして火山の噴火などにより、被災された皆様方に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心からお祈りいたします。

関連して、熊本地震による被災校支援のために、5月25日に開催した全日中の理事会において、募金をお願いすることを承認いただきました。全国の会員の皆様から、8月末日までに全日中事務局に664万806円、ご送金いただきました。9月初旬には熊本県中学校長会にお送りいたしました。皆様方のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

今年も東日本大震災の被災三県を訪問させていただきました。特に今年は、津波の被害が大きかった海岸線の地域や学校を訪問いたしました。震災以来すでに5年が経過した今現在も、まだまだ厳しい状況にあることがわかりました。

総会の挨拶でも申し上げたように、今後も全国の中学校長会と緊密な連携・協調を重視した組織運営に心掛け、全日中として、東日本大震災や様々な自然災害等による被災県・被災地域・被災校を可能な限り支援していきたいという思いを新たにしています。

さて、グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的に変化させつつあります。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでおり、子供たちの成長を支える教育の在り方も、新たな事態に直面しています。

こうした中、次期学習指導要領について、8月26日に「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」が公表されました。次期学習指導要領は、今年度中に告示され、中学校では平成33年度から全面実施になる予定です。

次期学習指導要領は、子供たちと教職員のみならず、関係者が幅広く共有し活用することによって、学校の創意工夫のもと、子供たちの多様で質の高い学びを引き出すことができるよう、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像をわかりやすく見渡せる「学びの地図」としての役割を果たしていくことが期待されています。

このような時期を迎え、私たちは実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団である全日本中学校長会の一員として、生徒たちがよりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるよう、積極果敢に教育改革に取り組み、充実した学校経営を推進することが求められていることを、ここで再確認したいと思います。

結びになりますが、大会主題の「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」のもと、各分科会において、ぜひ活発な協議を展開され、参加されたすべての皆様方が明日の学校経営に資する研究協議会となりますことを祈念して、開会の挨拶といたします。